

第3期愛媛県子どもの体力・運動能力向上推進3か年計画

1 策定の趣旨と基本方針

○ 策定の趣旨

県内では、人口減少が進み、コロナ禍を契機とした人々の価値観の変化やデジタル技術の進展等により、複雑で予測が難しい時代を迎えています。

これらに対応し、時代を乗り越える人材育成に向けて、「愛媛県教育振興に関する大綱」では、食事や運動等の望ましい生活習慣を確立し、子どもたちの豊かな人間性や健康・体力など、社会で生きる力を育む「未来を切り拓くたくましい子どもたちの育成」を掲げていますが、県内の子どもたちの体力等は、近年、低下傾向が続いています。

子どもたちを主役に据えた体力向上等は、本県の将来を担う重要な投資です。学校や保護者、地域が一丸となり、「チームえひめ」として総力を挙げて知・徳・体のバランスがとれた学びを提供することで、子どもたちが生涯にわたり心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指して、第3期計画を策定します。

○ 基本方針

デジタル技術も駆使し、次に示す3本柱の実現を目指します！

(1) “結果として” 体力向上につながるますます本気の授業づくり

子どもたちの健康・体力に係る厳しい現状を共有し、県教育委員会・市町教育委員会・学校がスクラムを組み、危機感を出発点とした体育・保健体育科のより良い授業づくりを行います。「わかる」「できる」経験の創出を主眼に置き、子どもたちに運動・スポーツ等の「本質的な楽しさ」を体感させます。

(2) “学校ぐるみ” の体育的活動・健康教育の推進

運動や生活習慣の改善についての重要性を学校全体で再確認し、全教職員が共通理解のもと、各学校の特色や強み、児童生徒の実態に応じた“学校ぐるみ”の体育的活動・健康教育を推進し、より良い活動環境の整備を図ります。

(3) “地域ぐるみ” の体育的活動・健康教育の推進

子どもたちが家庭を含めた地域の中で運動やスポーツに触れる機会を充実させるとともに、生活習慣に係る現状や改善に向けた効果的な取組を共有する機会を積極的に設けるなど、“地域ぐるみ”の体育的活動・健康教育を推進し、より良い活動環境の整備を図ります。

2 目標と成果指標

○ 目標

E^い授業・E^い環境でえひめの愛顔づくり ~E^い予感🍊、えひめの体育・保健体育~

Enjoy (エンジョイ) 楽しくて思わず夢中になる授業・環境づくり

try and Error (トライアンドエラー) 前向きな失敗を楽しんで自分なりの成長を感じられる授業・環境づくり

Evidence (エビデンス) 経験や習慣を見つめ直してデータ分析に基づく授業・環境づくり

Essence (エッセンス) 質の高い仕掛けで健康の意義やスポーツの価値等に気付く授業・環境づくり

Ehime no Egao (えひめのえがお) 「愛媛でよかった」そう思えるそう思われる授業・環境づくり

○ 成果指標

全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、次のように回答をする児童・生徒の割合が全国平均以上

◆「運動やスポーツは好き・やや好き」

◆「体育・保健体育の授業は楽しい・やや楽しい」

◆「体育・保健体育の授業でできたり、わかったりする」

◆「運動やスポーツへの様々な関わり方について、興味や関心がある・ややある」

◆「毎日朝食を食べる」

3 計画の期間

令和7年度から令和9年度までの3か年の取組とし、必要に応じて見直しを図ることとします。

4 全体構想

目標：^{い い}**E**授業・^{い い}**E**環境で^{え が お}えひめの愛顔づくり

～^{い い}E予感🍊、えひめの体育・保健体育～

【成果指標】

全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、次のように回答をする児童・生徒の割合が全国平均以上

- ◆「運動やスポーツは好き・やや好き」
- ◆「体育・保健体育の授業は楽しい・やや楽しい」
- ◆「体育・保健体育の授業でできたり、わかったりする」
- ◆「運動やスポーツへの様々な関わり方について、興味や関心がある・ややある」
- ◆「毎日朝食を食べる」

^{え が お}えひめの愛顔づくり方策

【課題】

- ・「できたり、わかったりする」児童・生徒の低い割合
- ・毎日朝食を食べる児童・生徒の低い割合

【方策例】

- (1) 現行の研修の充実及び実施主体間の情報共有
- (2) 各校の健康・体力に係るデータ及び取組の分析
- (3) 地域に向けた健康・体力に係る現状の発信・啓発

1年目（令和7年度）

【方策例】

☆ それぞれの課題解決に向けてデジタル技術を駆使した実践

- (1) 実施主体の枠を超えた有機的な研修形態の創出
- (2) データ分析に基づく改善策の検討・共有・実践
- (3) 関係課や関係機関と連携した取組の工夫・改善

2年目（令和8年度）

【方策例】

★ 次期3か年計画に向けたリフレクション及び関係者・関係団体からの意見集約

☆ それぞれの課題解決に向けてデジタル技術を駆使した実践の工夫・改善

- (1) 有機的な研修形態の運用に係る工夫・改善
- (2) データ分析に基づく効果的な改善策の横展開
- (3) 取組の効果分析に基づく連携の在り方の再整理

3年目（令和9年度）

しっかりとした**現状分析**から、真に**実効性**ある取組へ